

茗溪学園 中学校・高等学校

“Study Skills を身につけさせる教育” その4

広報部長 田代 淳一

茗溪学園が重視している Study Skills の一つは、調査方法（Investigating skill）です。何か疑問点や問題点が生じた際に、この解決や意思決定のために様々なレベルの investigation が必要ですが、そのための skill です。茗溪学園ではこの skill を5つのカテゴリーに分類して指導しています。「文献調査の方法」「Web 調査の方法」「訪問調査の方法」は前号で紹介しました。今回は、「フィールドワークの方法」「アンケート調査の方法」です。

フィールドワークの方法

「フィールドワークの方法」は人文社会科学的分野の場合と自然科学的分野の場合ではやや手法が異なってきますが、基本は共通で①調査目標を明確に設定する②事前学習を十分に行う③調査ポイントの選定の仕方④調査方法⑤得られたデータの処理方法、を指導していくことです。

どれも調査する上では当たり前のことばかりですが、茗溪学園では中学2年の筑波山キャンプで地理（土地利用）歴史（石造物）調査と自然総合巡検（地質・放射線・土中の鉄分比較）などを体験し、フィールドワークの初歩を経験させます。中学3年で理科巡検（地層・化石・霞ヶ浦の水質と浄化・蓮の生態）、高校1年で農業巡検（聞き取り調査と収穫体験）を経験し高校2年の個人課題研究へとつなげます。以前は高校1年で筑波山麓の山ノ荘地域で古老からの聞き取り調査を実施していましたが、古老の高齢化で現在は実施していません。

アンケート調査の方法

「アンケート調査の方法」は、実はかなり高度な skill であるという認識を持っています。

よく小学生レベルで簡単にアンケートを作って実施させたりしていますが、茗溪学園では高校2年の個人課題研究レベルの段階での調査 skill であると考えています。

あるアンケートを作成するためには、当然調査目標が明確に示されている必要があります。「このアンケート調査から以下の事項を明らかにする。①・・・②・・・」というように箇条書きで明確化させます。更に、調査前に「予想される結論」を立てさせます。この手法については賛否両論がありますが、特に人文社会科学分野の調査の場合、Goal を予想させておくことがその後の調査考察に非常に有効に働きます。

それからそれぞれの目標に対応する質問項目を考えさせます。この段階では逆に回答の誘導にならないように、また調査対象者の気持ちを考えて表現を入念にチェックさせます。質問項目が完成したら、前文でこの調査の目的と結果の利用方法、調査者と指導担当を明記させ、調査対象者がどのようなスタンスで調査に協力すればよいかを明確にします。調査実施前に、各項目ごとに結果を予想させ、どういう結果であればどういう考察に導くかを考えさせて最終修正をさせます。その上での調査実施です。

得られたデータとその分析・考察は何らかの形で調査対象者に報告する義務を負うことも教えます。そうしたことから独善的な考察をしてはいけないことや、他人にアンケート調査を行うということがたとえ高校生が実施するものであってもいかに公的性質を持つかを教えていくのです。

